



1年

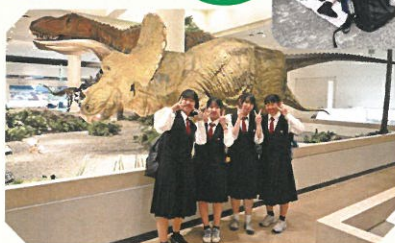


5月16日(金)

遠足



2年



3年



編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
P T A 広 報 委 員 会

..... 八幡浜高校芸術発表会

八高サマーフェスタ 2025

6月14日(土)



「八高、サイコー」

聖流ブロック保護者 酒井 慎也

開会式、そして閉会式の挨拶で、娘が全校生徒と叫んだ言葉。それが、今回の体育祭の全てを表していたと思います。結果こそ明暗が分かれたものの、どのブロックも全力で頑張った。八高生一人一人が本当に大切なものを得たことではないでしょうか。娘は高校生活の中で多くの貴重な経験をさせていたに違いありませんが、今回は体育祭のブロック長ということで、やや心配な点もありました。案の定、体調を崩し、多くの方に迷惑をかけました。しかし、素晴らしい仲間にも恵まれ、何とか最後まで頑張ることができました。娘が前向きな気持ちで終わったのも、聖流ブロックの皆さんのおかげです。



最後に、子どもたちをいつも支えてくださる先生方を始め、沢山の方々、本当にありがとうございます。あと少しになりますが、よろしくお祈ります。

最後に、子どもたちをいつも支えてくださる先生方を始め、沢山の方々、本当にありがとうございます。あと少しになりますが、よろしくお祈ります。



「仲間との絆」

柏皇ブロック保護者 新瀬小百合

直前の台風による雷雨が信じられないほどの晴天の朝を迎え、今年も八高体育祭が幕を開けました。我が息子にとつて高校生活最後の体育祭。グループ長に立候補を宣言し、演説で熱い思いを伝え、めでたく選出された。結果として、果たしてこの大イベントのグループ長としてうまくリーダーシップが取れるのか、親として嬉しい反面、不安で胸がいっぱいになりました。準備が進んでいく中で、やはり待ち受けていた困難に直面したようです。息子の仲間の協力し合って解決することができたように、高きにも感動していました。

息子も責任という重圧を感じながら自分の役目を果たし、グループ一丸となって迎えた本番。迫力のある装飾パネルに心打たれる中、華やかさ・ユニークさが入り混じった入場行進では、生徒達のはじける笑顔に、こちらも笑顔になりました。競技では、どの場面でも一生懸命に力を注ぐ八高生の素晴らしい姿に感動しました。工夫を凝らした仮装の演技、勇ましさ、艶やかさのある応援、どれも素晴らしい。あつという間に、時が流れ、迎えた結果発表。各部門発表の瞬間に一喜一憂しながら最後まで祈り続け、なんと柏皇は総合優勝。仲間と笑顔あり涙あり、身体全体で喜び合い、絆が深まった瞬間にぐっとくるものがありました。



「八高大好き! 八高最高!」

八翔ブロック保護者 大津 仁子

我が家の末っ子にとって最後の体育祭ということもあり、これまで以上に思い深い一日となりました。友達と声を掛け合って「最後だから気合いを入れよう」と坊主頭にしてきた時は驚きましたが、体育祭への本気度を感じていました。迎えた体育祭の競技では、全員が一丸となり、勝敗に関わらず互いを励まし合う姿が印象的でした。お笑い大好きな主人は、仮装のYーグランプリを大満足で楽しんでいました。応援合戦は、衣装もかっこよく、子供達の団結力と気迫が観客席まで伝わってきました。

息子は普段から「学校大好き、クラスの仲間大好き」と口にしていましたが、今回の体育祭を通してその言葉が本当であることを実感しました。仲間と過ごす日々を心から楽しみ、練習の大変さも「仲間と一緒に頑張ったのだ」と思っています。仲間と共に励まし合いながら頑張る力や、互いを思いやる心は八高の素晴らしい環境で育まれたものだと感じました。最後に全員で「八高最高!」と声をそろえた瞬間は、まさにスローガンの『星瞬』を体現しているように思いました。

末っ子の体育祭が終わり少し寂しさもありますが、それ以上に大きな成長を見届けられたことに感謝です。この経験を通して深めた仲間との絆を胸に、これからも成長していつかほしいと思います。支えてくださった先生方や保護者等の皆様に心から感謝いたします。





ともに繋ぐ

男子バレーボール部
保護者 二宮 優子

新チームになり挑んだ南予新人戦。決勝戦では一セット先取るも逆転され準優勝。この悔しさをバネに、日々の練習により一層力が入りました。それから数ヶ月。息子達三年生にとって最後の南予総体が始まりました。順調に勝ち進み、見事優勝!! 新人戦の屈辱を晴らし、子供達の顔はキラキラと輝きました。応援していた私達もニッコリできました。そして県総体。目標のベスト4には一步届きませんでした。最後まであきらめずプレーする姿に熱くなりました。順風満帆とはいかず、いろいろなことがあった部活動。共に悩み、励まし、支え合える仲間がいたから頑張ることができました。熱心に指導してくださった先生、いつも子供達のことを考え協力的な保護者等の皆様、バレー部男子を応援し支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



先、一本!

卓球部
保護者 菊池 葉子



気合のこもった声援に、のんびり屋の娘が真剣な表情に変わります。
スランプに涙した時期を乗り越え、おそらく今回で最後となる南予総体の優勝カップを持ち帰り、四国総体へも出場することができたのは、顧問の長野先生をはじめ、共に闘ったチームのみんなや応援して下さった皆さんのお陰です。
どのご家庭も同じだと思いますが、水筒用の氷を切らさず、エネルギーになりやすいお弁当を準備し、プレッシャーをかけない言葉で送り出す。大変なこともありました。成長に感謝し、輝いていた日々でした。この瞬間も全てが宝物です。
これからも皆様のご活躍をお祈りしています。本当にありがとうございました。

ありがとう

野球部
保護者 大本 公江

ほとんどの三年生が総体も終わり部活動に一区切りがついた生活の中、変わらず野球漬けの日々を過ごしている子供達。一丸となって子供達を応援し、子供達以上に野球を楽しんでいる保護者達。
強豪校相手の練習試合では、気持ち良い程の大差で負けることもありました。野球の技術も向上し、体も成長した今「三年生が何とかしてくれるんじゃないか」と期待させてくれるまでに頼もしい存在になりました。
これまでご指導いただいた兵頭部長、清水監督、コーチの方々をはじめ、いつも温かく応援してくださる八高野球部関係者、保護者等の皆様に、心より感謝いたします。
三年生の皆さん、意見が合わ

ずぶつかることもありましたが、今までありがとう。一・二年生の皆さん、三年生を支えてくれてありがとう。

ありがとう

剣道部
保護者 都築 陽子



竹刀を握って十数年。今までたくさんの笑顔と涙を見せながら続けてきた剣道。試合前には強気な発言で自らを奮い立たせてきた息子の原動力は、常に周りにいてくれた仲間達でした。八高剣道部の仲間は普段は穏や



かな空気を醸し出しています
が、ひとたび面をつけるとまるで別人。試合では気迫に満ち、全力で相手に立ち向かう。その普段とのギャップに毎回驚かされ、そして多くの感動をもらいました。仲間と得た勇氣と自信。それを忘れずに「今」に全力を尽くし、目標に向かって進んでいってください。

これまで熱心に指導してくださった先生方、支えてくださった保護者等の皆様、そして共に頑張ってきた仲間達。すべての出会いと、このかけがえのない日々に感謝いたします。ありがとうございました。

一射心を込めて

弓道部
保護者 井上 真弓

弓道に出会ったのは、四年前。娘に続き、息子も弓道部へ。最初は弓道部と言えば、的に的中すれば勝敗が決まるくらいのイメージでした。実際に応援に行き、緊張感みなぎる場であることを知りました。礼儀を大切に、一つ一つの動作に品があり、的中してもしなくても心の動揺を見せることなく、自分の役割を全うする。そんな姿に、日頃からの心身の鍛錬、己磨きの結果だと心を打たれました。

悔しいことも歯がゆいこともあったと思います。そんな時も仲間とともに厳しく楽しく日々の修練ができたこと、感謝しています。心のこもった指導をしてくださった先生方、コーチ、そして温かく見守ってくくださった保護者等の方々、部員の皆さん、本当にありがとうございます。『一射入魂』今後のご活躍を期待しております。



栄光の舞台へ、全力で泳ぎきれ

水泳部
保護者 坂本 由美

三年生の皆さん、これまで水泳部で過ごした日々は、決して楽な道ではなかったと思います。早朝から夜遅くまでの練習、厳しいトレーニング、たくさんの汗と涙、そして仲間との絆。今の笑顔が皆さんの成長の証です。



証です。保護者一同、皆さんがどんなときも真摯に水泳に向き合う姿を誇らしく見守ってきました。ときには悔しさに唇を噛みしめ、ときには目標達成に歓喜する姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。これまでの練習で培った力と自信を胸に、最高のパフォーマンスを見せてもらいました。結果がどうあれ、最後まで諦めずに泳ぎ切る姿は、きつと後輩達の心に深く刻まれることでしょう。自信をもって最高の舞台を思いっきり楽しんだみなさんの力強い泳ぎと輝く笑顔をこれからも応援しています。

NEW! 部活動を紹介します

来年度の統合に向けて、今年度サッカー部が新設されました。八幡浜工業高校、川之石高校との合同チームです。一年生一名が練習に励んでいます。応援よろしく願います。



PTA理事

地区名	氏名
江戸岡	高橋 安希
	清原 美幸
矢野町	山下 良二
大黒町・新町・本町	井田 和美
白浜・幸町	井上 映里
大平	西岡 美緒
向灘	中野 新
古町・産業通	箱崎 美和
松柏・松尾・郷	札本 桐子
	速水 由香
	坂井 志保
五反田	平田しのぶ
川舞・双岩	今本 晴子
舌田・川上	宇都宮美由紀
真穴	末光 綾
日土	宇都宮裕子

地区名	氏名
喜須木	小野 奈々
	小野ミネ子
宮内	西谷 由香
	清水ひとみ
川之石	宇都宮弥咲
伊方	山本 千草
	近田 容平
三瓶	武嶋 奈美
	坂竹 育世
宇和	長尾美貴子
	宮本 美紀
	廣瀬 聡
	三好 研治
大洲・喜多	酒井 奈美
	大山 真紀

令和7年度 Parent・Teacher・Association 役員

役職	氏名	地区名
PTA顧問	成瀬 智文	大黒町・新町・本町
PTA会長	井上 隆	江戸岡
PTA副会長	山内 武弥	松柏・松尾・郷
"	井上 敬子	真穴
"	高橋 恭子	白浜・幸町
"	木下 和隆	松柏・松尾・郷
PTA監事	小野 詔子	喜須来
"	佐々木有利子	江戸岡
"	上田 崇之	向灘

(敬称略)

5月15日(木)
PTA理事会
(専門委員会)

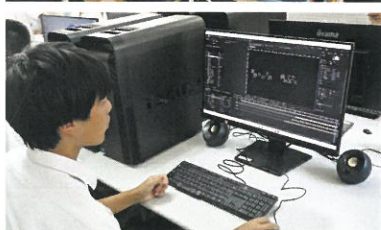


井上会長を中心とした3役9名と各地区より選出された31名の理事、先生方で5つの専門委員会を組織しています。

校外生活指導委員会	研修・人権教育委員会	広報委員会	厚生保健委員会	学年委員会
委員長 山下 良二 副委員長 大山 真紀	委員長 宮本 美紀 副委員長 長尾美貴子	委員長 宇都宮裕子 副委員長 西谷 由香	委員長 近田 容平 副委員長 井田 和美	委員長 酒井 奈美 副委員長 坂井 志保

本校は文部科学省のDX(デジタルトランスフォーメーション)加速化推進事業に採択され、探究活動やSTEAM教育に力を入れています。八月十九日(二十二日)に特別講座を開講し、情報科学や防災、芸術など三十五講座で生徒達が学びを深めました。

STEAM教育とは? 科学、技術、工学、芸術・リベラルアーツ・数学の頭文字を取った造語。各分野を横断的に学び、社会の課題を発見・解決する資質や能力を育成します。



STEAM教育特別講座の紹介

我が保内三崎チームが優勝に輝けたのは、若い先生方の活躍に感化されて自分たちの青春時代を思い出し、それぞれが仲間を思いやり、今の自分の力をわきまえながらも邁進することができたからだと思っています。

バレーで体が軽くなり、懇親会では心が軽くなる、そんな充実した一日を



喜須来 小野 詔子

六月二十一日、PTA親睦ソフトボールバレーボール大会が開催されました。参加された先生方、保護者の皆様お疲れ様でした。今回は大会前に、「努力には夢がある」倉田茂先生の熱く有意義な講演を拝聴し、いつもの大会とは違う熱気に包まれていました。自利利他を胸に、日々の生活を見つめ直しながら、白熱した試合が各所で繰り広げられました。

「素質に努力は勝る」倉田茂先生が講演会で話された言葉です。この教えを心に刻み、私たちも成長し続けていきた皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

PTA親睦ソフトボール大会

過ぎしながら、次回は少しでも多くの方々との交流ができる大会にしたいと強く感じました。

朗読部門 NHK杯全国高校放送コンテスト・かがわ総文2025

感謝

広報部(放送) 三年 木村 美月

私はこの夏、二つの全国大会の朗読部門に出場しました。まず、関わってくださった全ての皆さん、本当にありがとうございました。自分のやる気だけでは足りなかった舞台でした。一緒に練習してきた部員や、先生方、合同練習でお世話になった他校の先生や生徒の皆さん、そして応援してくださった皆さんに本当に感謝しています。

全国大会では、改めて「伝える」ということの奥深さを強く感じました。アナウンスや朗読は、原稿を見ていない、作品を読んだことのない目の前の相手に自分の声だ

文芸部門 かがわ総文2025

自分しか書けないもの

広報部(文芸) 三年 兵頭 春香

私は今回、香川県で行われた全国高等学校総合文化祭文芸部門に出場させていただきました。一日目は、瀬戸内海歴史民俗資料館や瀬戸大橋記念公園などを巡る文学研修に参加しました。どの施設でも、地域の歴史や文化について楽しく学ぶことができ、とても有意義な時間になりました。特に東山魁夷さんという作品は、描かれた小さな星が本当に光り輝いているように、時間を忘れて見入ってしまう魅力があり、とても印象

現でした。同時に、自分はまだまだそこに到達できていないという悔しさも感じました。



夢の大舞台

陸上競技部 三年 清水飛悠吾

やり投げという競技を選んで二年と少し経ち、インターハイの舞台で戦えたことは、自分の人生にとって、とても意味のあることだと感じます。

一年生の新人戦は校内選考で負けてしまい、迎えた二年生の南予総体は、人生で一番緊張しました。結果は南予九位で予選落ち。十二人中八人が県大会に行ける中での九位はとても悔しかったですが、三投目が終わって38m10で負けた瞬間に、これでもうこんなプレッシャーに耐えなくていいのだと思つて安心してしまった自分がいた事への失望もありました。そこから練習を重ね、夏の試合で44m77、冬季に46mを短助走で投げられるようになりましたが、迎えたシーズンインは不調に陥り、40mいかないような投げしかできませんでした。それでもなんと南予総体に間に合わせることができ、46m64のベストを

中国総体2025

出すことができ、県大会では8m近くベストを更新して54m11、二位になり、四国でも三位になって出場できたインターハイでした。今年の書き初めで書いた55mという目標を絶対インターハイで達成するぞと思つていただけに、47m、予選敗退に終わって悔しかったです。全国では全く通用せず、壁を感じましたが、65mを超える記録を生で見ることができて、ここに来た意味があったなと思えました。やり投げ以外にも清水空跳選手の10・00の世界ユース新記録や八種の宮下輝一選手の日本高校新記録を見て、自分とは比べ物にならないくらいの努力をしてきたのだらうと思いました。やり投げを僕より頑張っている人はたくさんいると思います。が、僕ほどやり投げが好きなのは多くないと思います。何の才能もなかった自分を、インターハイの舞台に立たせてくれた家族や先生、チームメイト、練習環境、本当に恵まれていたと思います。これからの人生にこの経験を生かして頑張っていきます。ありがとうございます。



全国高等学校ワイプロ競技大会

全国大会に出場して

ビジネス部 三年 石間 未歩

七月二十九日に東京都で行われた第七十二回全国高等学校ワイプロ競技大会の団体の部に出場しました。県大会で優勝し、目標としていた全国大会に出場できると決まった時は、とても嬉しかったです。全国大会の前哨戦である四国大会では団体優勝という好成績を残せましたが、全国大会では四十七都道府県中二十位という結果に終わりました。全国大会はレベルが高く、入賞はできませんでしたが、今までで一番高い点数を出すことができました。

ワイプロは十分間という短い時間の内に何文字打てるか、その点数と正確さを競うものです。毎日の練習で技能の向上だけでなく、集中力をどれだけ高めることができるかが重要です。私は大会で緊張感や焦りなどから百パーセントの力を出し切れずに悔しい思いをしたことが何度もあります。その悔しい思いをバネに練習を続けてきました。点数が伸びずにどうしようかと思ったときもありましたが、諦めずに練習を続けてきてよかったと思います。練習では本番を意識して緊張感を持つようにしました。本番では練習通りにできるように心を落ち着かせ、自信を持つように心がけました。部活動を通して努力を続けることがどれだけ大切で大変なのか、身をもって感じることできました。

三年間はとても充実したものでした。応援してくれた家族や友達、支えてくださった顧問の先生方やワイプロ班の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。



全国高等学校ビジネス計算競技大会(電卓)

人生の宝物

ビジネス部 三年 小野 優凜

高校へ入学し、学校生活をはじめとして様々なことが目まぐるしく変化していく中、検定の勉強になるならと活動内容もあまり知らずに入部したビジネス部。右も左もわからないまま入部した私を温かく歓迎していただき、ビジネス部で頑張ることを決心しました。高校一年生で経験した県大会では、先輩方が全国大会へ出場し、改めて先輩方の凄さを感じると共に、私もより一層頑張らないといけないと気合を入れることができました。初めは、先輩方の足を引っ張ってはだめだという気持ちで一心に頑張っていました。練習を重ねていくにつれ、「私も全国大会へ出場したい」という気持ちに変わっていききました。練習は決して派手なものではなく、毎日同じことの繰り返しにうんざりしてしまうときも多くありました。また、思い通りの結果が出ず、行き詰まり何度もあきらめそうになりました。そんな時には、先輩が優しく声をかけてくれた頑張る理由を私にくれました。先輩方の存在は今でも私の心の支えになっています。

先輩が引退し、私が先輩という立場となつて初めての県大会では、無事に全国大会出場を決め、三年連続全国大会出場を成し遂げることができました。全国大会の舞台に立った時、支えてくれた全ての人への感謝の思いが胸に込

みあげ、この部で過ごした日々の重さを改めて実感しました。全国大会本番では、思うような結果を残すことはできませんでしたが、全国の強豪校と戦うことができたということは人生の宝物であり、私の自信にもつながりました。三年間を振り返ると、決して楽しいことばかりではありませんでしたが、部員や顧問の先生の存在が私を大きく成長させてくれたと思います。引退を迎えた今、部活動で培った忍耐力や協調力、挑戦する心はこれからの人生においても必ず役に立つと確信しています。

多くの学びを得ることができた三年間となりました。ありがとうございました！

